

平成 18 年度号 No.26 平成 18.6.1 発行  
〒275-8511 千葉県習志野市泉町 2-1-37  
東邦大学付属東邦中学校・高等学校同窓会  
TEL/FAX 047-472-1160  
URL <http://www.dosokai.org>  
E-mail [tohojh\\_dousokai@yahoo.co.jp](mailto:tohojh_dousokai@yahoo.co.jp)

## 目 次

- 同窓会総会開催案内…………… 1
- 会長あいさつ…………… 2
- 学校長あいさつ…………… 4
- 同窓会のこの1年…………… 5
- 同窓生のページ…………… 7
- 特別寄稿…………… 8
- 学校の近況…………… 13
- 平成 18 年度入試結果 …… 14・15
- 新入会員を迎えて…………… 16



題字：創立者 額田 晋先生 書

## 同窓会総会開催案内

日時 平成十八年七月一日(土)  
会場 東邦大学付属東邦中高等学校内  
セミナー館 四階 視聴覚大ホール

受付開始 十四時

◆ビデオ放映

◆セミナー館施設案内

総会開始 十五時

懇親会スタート

議案 十六時(会場 一階カフェテリア)

・平成十七年度事業報告

・平成十七年度会計報告

・平成十八年度事業計画案

・平成十八年度予算案

・その他

学校の近況報告

・東邦中学校・高等学校入学をとりま

く状況

・大学進学状況に関して

・その他

※先生方からご説明を頂きます。ご家族  
同伴の出席可。

懇親会 総会終了後、懇親会を行います。

会費は、正会員五千円、学生会員千円  
とし、平成十八年三月卒業の新会員はご  
招待とさせて頂きます。また、会員同伴  
のご家族からの会費徴収は致しません。

★出欠のハガキは六月二十八日(水)ま  
でにご返送下さい。なお、今年度は  
FAXでの回答はご遠慮下さい。

TEL 〇四七-四七二-一六〇

# 「人間力」の育成を担う「キャリア教育」

—いま社会で問われている「人間力」とは?—

中高同窓会長 鮎川二郎（七期卒・現千葉商科大学教授）



□なぜ人間力が問われているのか

最近、政界や業界、さらに私たちの身近な生活環境等において、

ガセネタ事件、粉飾決済事件、耐震ビル建設不正事件、幼児虐待や殺人事件等々、以前に増して深刻な問題が多発しています。

他方、少子高齢化や産業・経済の構造的変化、雇用環境の変化を背景にして子ども・若者たちの進学・就職を問わず、進路を巡って学力の低下や求人と求職のミスマッチ、ニート、フリーターの増加の問題が多く指摘されています。

こうした中で、家庭や学校、さらに職場等、社会全体において、基礎学力や専門知識に加え、コミュニケーション能力や挑戦力、実行力等が重視されてきています。このような「人間」の基本能力は、従来「生命」の誕生から大人になる過程で日常生活や教育環境を通じて「自然」と身に付く能力と考えられていましたが、そうとは言い切れない時代になったという指摘もあります。その指摘は、家庭教育から学校教育、さらに社会教育までの教育再興を時代は求めて

いるからだと思います。そのような時代の要請に対して、後述のように経済産業省や文部科学省での対策が始まっています。

家庭人、学生、教師、さらに企業人、政治家等々の立場を問わずこうした現実を率直に受け止め、互いに意識改革と解決策に取り組むことが社会人として大切なことであると考えます。

そこで、本紙面では、私の日ごろのキャリア教育経験を通じて、また、文部科学省、経済産業省等の取り組み状況を交えながら以下の点について述べてみたいと思います。

□「人間力」とは？

文系・理系を問わず教育を終えて就職活動の際、採用側が選考で重視するのは、コミュニケーション能力、チャレンジ精神、主体性、協調性、誠実性、責任感などの順である（経団連調査結果）とされています。このことから基本的には大学卒業見込みのものであれば、社会の中で多様な人々と共に仕事を行っていく上では大学名や学力の程度よりも人間的基礎能力を評価していることです。つまり、家庭生活や学校生活を通して特に人間力をしっかり身につけていない学生は、いくら知的能力があっても社会は受け入れない時代になったことです。

□「社会人基礎力」に関する緊急調査

「社会人基礎力」とは、経済産業省では、「職

場や地域社会の中で多様な人々と共に仕事を行っていく上で必要な基礎的能力」と定義し、

三つの能力構成（前に踏み出す力：アクシジョン、考え抜く力：シンキング、チームで働く力：チームワーク）と、十二の能力要素（主体性、働きかけ、実行力、課題発見力、計画力、創造力、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）から成るとしています。同省は、平成十八年二月に東証一部上場企業一六七一企業に対して「社会人基礎力に関する緊急調査」を実施し、その結果、九割以上の企業が採用・人材育成のプロセスにおいて「社会人基礎力」を重視しており、特に「主体性」や「実行力」を求めている企業が約八割、他方、社員の「主体性」、「課題発見力」の能力不足を感じている企業が多く、企業側のニーズと現実とのギャップがあることが明らかにされています。同省では今後の家庭や地域社会に望まれる取り組みや、小・中・高等学校、大学等の教育機関で、社会人基礎力の育成を視野に入れた教育の実施等に取り組んでいます。

□「キャリア教育」とは？

前述のような状況の中で、子供・若者たちに将来の夢を育むきっかけを与え、夢をかなえたいという意欲を引き出し、育てるために効果的な教育方法として注目されているのが、「キャリア教育」です。

キャリア教育とは、文部科学省の定義によれば「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積とされています。

キャリア教育の本質について述べると、それは子ども・若者の一人ひとりが明確な目的意識を持って日々の学業生活に取り組み姿勢を育

み、「力強く生きる力」を身に付け、社会の变化に対応し、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力や勤労観、職業観を身に付け、社会人・企業人として自立していけるようにするための教育です。

このように、キャリア教育は「学ぶこと」と「生きること」「働くこと」を関連付ける役割を持つものといえます。したがって、キャリア教育は、フリーター、ニートの予防にとどまらず、個人の将来に向けてのキャリア形成を支援するとともに、次代の社会を担う人材育成に大きく貢献するものといえます。その意味では、キャリア教育の実践は、とりわけ小・中学校の初等教育段階からの取り組みが求められますが、高等学校、大学、さらには就業後においても生涯にわたって展開されるべき意義あるもので、既に各段階に応じて取り組まれています。

初等中等教育では、主に職場体験の形で取り組まれてきていて、大学や短大においては、平成十年頃からキャリア教育の一環としてインターンシップを中心に正課授業に導入されるようになってきました。今日ではキャリア教育の領域は次第に内容も充実し、インターンシップ以外にキャリアデザインや職業研究、資格取得等、キャリア開発に関連したカリキュラムの導入に対する取り組みが活発に行われ、学びとキャリア形成と就職実現に向けた特色あるカリキュラムや学科が見られるようになりました。

このように、短大・大学等ではキャリア教育が幅広く充実した方向へ取り組まれています。家庭教育での「躾」は言うまでもなく、小中学校・高等学校・大学・企業まで人間の発達段階に応じて「学ぶこと」と「生きること」と「働くこと」に関連づけたキャリア教育に取り組まれる

ことが大切であると考えます。

□今こそ東邦教育理念「自然・生命・人間」の真価を発揮する時代

母校は、建学の精神・教育理念である「自然・生命・人間」に則り、多くの同窓生を世に送り出し、卒業生は各方面で活躍されています。前述のように、人間力が社会全体で問われるようになったことから、学校法人東邦学園が教育の成果を社会により一層貢献する時代が到来したといえます。そのことは現在国会に提案中の「教育基本法の改正案」（文部科学省平成十八年五月）の条文からも窺えます。

先ず、同法案の「前文」では、  
「公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期する」、また、「教育の目標」では、  
「幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに健やかな身体を養う」、  
「職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養う」、  
「生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う」が新たに加えられています。

第二章「教育の実施に関する基本」の第六条 学校教育では、  
「教育の目標が達成されるよう、教育を受ける者の心身の発達に応じて、体系的教育が組織的に行われなければならない。この場合において、教育を受ける者が、学校生活を営む上で必要な規律を重んずるとともに、自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して行われなければならない」を新設しています。

第十条家庭教育では、  
「父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものであって、生活のために必要な習慣を身に付けさせるとともに、自立心を育成し、心身の調和の

取れた発達を図るよう努めるものとする。の条文が新設されています。

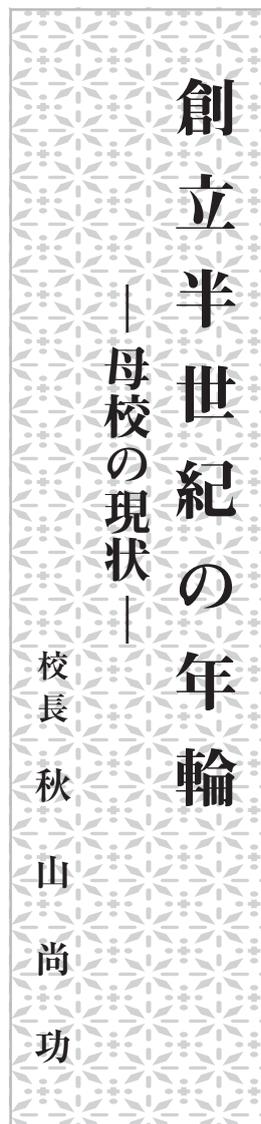
以上のことから、教育環境の変化に伴い、教育行政に対する国の立場からの今後の取り組みを窺い知ることができると思います。

ここで特筆したいのは、同法案の条文は、「自然・生命・人間」が強調されているばかりか、人生の教本ともいえるべき創立者額田晋著「自然・生命・人間」で著されている東邦教育理念・思想内容と深く関係しているかのよう読み取ることが出来ます。このことから、著書「自然・生命・人間」の素晴らしさを改めて感じているところです。

「人間」は、「人との間」で調和して自らを育み、人間力を意識して生きることが大切と考えますが、昨今のような複雑かつ殺伐としたこの時代でそれをどう具現化するかが重要と考えます。その意味で、著書「自然・生命・人間」にまだ接していない方は、是非ご一読をお勧めいたします。また、すでに読まれた方には、知人、隣人にもお勧めいただければその価値を共有していただけなものと思います。

同窓会では平成十四年、母校中高の創立四十・五十周年事業として同著書の復刻版を発行して以来、継続的に頒布しています。ご希望の方は同窓会事務局までお問い合わせください。

今回は取って会報の紙面をお借りして「人間力」に関して思うが儘に筆を走らせましたが、母校後輩や同窓生をはじめ、関係の皆様にも少しも身近で重要な今日的課題を考える機会にでもなれば幸いです。



# 創立半世紀の年輪

## ―母校の現状―

校長 秋山尚功



はじめに  
 鮎川会長をはじめ同窓会員の皆様には、母校の教育振興のため多大のご支援を頂いております。

心から感謝を申し上げます。若葉の美しい時節となりました。朝夕生徒を見守る銀杏の巨木。甦る若葉は透明感を帯びて目に眩しい。夏頃には重厚さを増し、やがて秋になれば黄金の盛りを誇り、冬には灰色の枝を天空に突き上げながら春の訪れに備える。校長室の窓越しに演じられる自然の営み。この一年、銀杏や生徒がどんな変化を見せてくれるか楽しみです。

◇年輪を刻んで  
 本校は創立以来半世紀、東邦大学への特別推薦制を享受する付属校として、今年の入学式から東邦大学青木学長、黒田医学部長（昭和四七年度本校卒）にもご臨席を頂き、伝統校に相応しい装いの中で新たな一步を踏み出しました。最近は女子入学者が若干減少気味ですが、中高約二千名の生徒を擁しています。大学入試結果も良好で、特に国公立では東大・東工大や千葉大医薬等の超難関大、私立も早・慶・上智・

東理大等に多数合格しました（別項参照）。これを弾みに後輩諸君の更なる挑戦を期待するものです。

◇創立五十周年記念の一環とも言えるセミナー館が昨年完成したことに続き、学校法人東邦大学に帰属する本校として、今年は私学としての特色化を意識した組織目標を定め、全職員が協力して「選ばれる学校」づくりに取り組んでいます。重点項目は、①学力増進と進路指導の充実、②望ましい人格形成の重視を基軸とする着実な教育実践です。具体的には、①については、学校経営や授業の改善に生かす外部評価の実施、「学問体験講座」等による学志の喚起、②については、『自然・生命・人間』（同窓会寄贈）の活用等による建学の具現策の検討等が主な内容です。今後とも、生徒自身の学ぶ興味や関心を喚起すると共に、心豊かな人間性の涵養を啓発するような多様で深化した教育を職員で工夫していきたくと考えています。

◇先輩の授業（3）  
 その一つとして企画された中学三年生対象の職業講座では、本校OB馬場和佳（平成三年度卒）弁護士にも講師をお願いしました。先生は、今日本で話題となっている裁判員制度等の具体例を通して、裁判官・検事・弁護士の役割を説明し、法律家の仕事を分かり易く解説されました。そして最後に「日常生活を通じて、何

が正しく、何が間違っているかを自分の頭で考え判断し、人に説明し説得できるようにしたい。」、「自分だけで解決できない時は、信頼できる大人に相談して欲しい。」と適切なアドバイスで結ばれました。生徒達は、先輩の話に親近感をもって耳を傾けていました。

### ◇先輩の活躍

昨年六月発行の「鉄門だより」が本校掲示板に紹介されました。本校OGで東大医学部大学院の村上尚加さん（平成十二年度卒）が東京大学総長賞を受賞した話題で、前年秋に研究成果（細胞に存在するG2Aタンパク質受容体に関する研究とのこと）を国際論文として発表した新説が評価されたものだそうです。医学部に入学した頃は臨床医が目標だったが、今では自分にしかできないスペシャリストになることを志し、日々エキサイトした人生を送っていきたいという彼女。「自分のやっている研究を面白そうに伝えられる人になりたい。常にアクティブであり、自分の研究に対して正直でありたい」と語っています。

創立者額田兄弟博士の後輩として、また謙虚な自己省察と能動的な学びを標榜する本校の卒業生としての快挙を、母校としても誇りに思うと同時に、後輩諸君に掲げてくれた「学の灯」と受け止め敬服している次第です。

むすびに 創立以来半世紀、今や本校同窓生は約一万八千余名に及ぶ威勢を誇っています。今後とも各界に活躍する先輩各位のご協力を得て、在校生諸君の学志の高揚を図りたいと思いますので、ご協力をお願い申し上げます。同窓会の今後益々のご発展を祈念しご挨拶と致します。

（平成十八年五月十一日、記）

# 同窓会のこの一年

同窓会理事 御 喜 和(十八期生 母校教諭)

同窓会活動の一年(平成十七年六月～平成十八年五月末)を簡単に報告させていただきます。

なお、総会の実施日の関係で、昨年度の会報での報告と一部重複した内容がありますことをご承知おき下さい。

## 母校のセミナー館建設関係行事

### への参加・寄付

#### 竣工式神事・祝賀会

平成十七年七月九日、新棟(セミナー館)四階の視聴覚大ホールにおいて、二宮神社宮司による竣工式神事が営まりました。同窓会からは鮎川会長が会を代表して出席しました。

神事終了後、一階の食堂ホールにおいて、ご来賓、学校関係者多数の臨席のもと、祝賀会が行われました。同窓会からは鮎川会長以下役員八名が参加しました。

#### 同窓会からの寄付に関して

平成十八年度の定例総会で鮎川会長から「新棟建設にあたっての寄付」について、基本的な考え方の説明がありました。この考え方に従って、竣工式の祝賀会会場において、「金、貳千万円」の目録贈呈を行いました。寄付の目的は、「セミナー館の教育設備(五階天体観測室の設備等)充実のため」とさせて頂きました。

#### 同窓会事務室の移転

セミナー館のオープンに伴い、同窓会事務室

がセミナー館二階に移転しました。

## 平成十七年度同窓会総会・懇親会

平成十七年八月二十七日午後三時より、完成

### 総会・懇親会



野口理事長より感謝状の授与

校歌斉唱



総 会

間もない母校セミナー館の四階視聴覚大ホールにて平成十七年度同窓会総会が行われました。

総会に先駆け、秋山尚功校長先生、進路指導部長の山岸良二先生から、ご丁寧な学校近況報告を頂きました。また、学校法人東邦大学理事長、野口鉄也先生から、セミナー館への寄付に対する感謝状が贈呈されました。

議事は、会報「ならし」の第二十五号に提示された議案を中心に予定通り進められ、決算報告、事業報告、予算案、事業計画案等、すべて承認されました。

総会参加の会員から「みんなで校歌を歌おう」という意見があり、総会の締めとして、北川太郎氏（三十一期生）の指揮による校歌斉唱が実現しました。年代を超えての校歌の斉唱はなかなか感慨深いものがありました。

総会終了後の懇親会は、平成十六年四月に亡くなった「高間平三先生を偲ぶ会」を兼ねて行いました。会場には高間先生のご遺影と生花。高間先生を慕う多数の卒業生が集い、「若者が大好き、お酒も大好き」の高間先生を偲ぶにふさわしい集いになりました。

なお、また、東邦大学理事長、野口鉄也先生には、お忙しい中、今年度も総会・懇親会会場に駆けつけて下さいました。ここに感謝を込めて報告させて頂きます。

### 卒業記念品の贈呈

卒業を祝い、例年通り、「ペン型印鑑」と、「鮎川二郎会長デザインの特製ペーパーバッグ」を卒業生全員に贈呈しました。（平成十八年三月二日）

### 臨時会報の発行

昨年度に引き続き、今年度も新入会員に対して、「臨時会報」を作成・配布致しました。

会報には、同窓会組織・規約の説明、高校卒業生への祝詞と激励などを盛り込みました。（平成十八年三月二日新入会員に配布）

### 同窓会入会式・母校卒業式

平成十八年三月二日（卒業式の前日）、母校体育館で同窓会入会式が行われました。同窓会を代表して手塚幹子理事が「激励のスピーチ」を行いました。翌三月三日には、同会場にて卒業式（卒業生三七三名）が行われ、同窓会を代表して猪野邦雄理事が祝辞を述べました。

### 平成十八年度入学式

平成十八年四月九日、母校体育館で中学校・高等学校の入学式が行われ、猪野邦雄理事が「卒業式に続いて」同窓会代表の祝辞を述べました。

### 新入生への「自然・生命・人間の復刻本」贈呈

東邦中・高への入学を祝い、例年通り、学祖額田晋先生著「自然・生命・人間」の復刻本を新入生全員に寄贈しました。（平成十八年四月九日）

### 母校の女子制服改定の取り組みへの協力

母校東邦高校では、平成十九年度入学生からの女子制服改定に向けて、検討が進められてきました。同窓会執行部は、学校からの依頼を受け、取り扱い業者プレゼンテーション、制服プランの展示会、等へ参加し、学校の取り組みを支援してきました。

※「学校の近況」のページに関連記事記載。



制服サンプル例  
(平成 18 年 7 月決定予定)

懇親会 — 恩師を囲んで



高間先生を偲んで



# 同窓生のページ

## 高間平三先生一周忌の集い

高間平三先生を偲ぶ会が一周忌から二日後の平成十八年四月二十九日、雨天の中、決行された。一〇〇名を超える参加者の中には、登美子夫人、長女陽子さん、次女晶子さん、長男文昌氏、お孫さんら、ご家族ご親戚の高間家ご一同と、大森先生、押田先生ご夫妻、三住先生、野田先生、山岸先生、高品先生、御喜先生、松本琢司先生の先生方、三十一期卒を中心にラグビー部OB会、三十五期卒等のたくさんの教え子が加わり、登美子夫人の言葉を借りれば、「賑やかなのが好きだった」先生に相応しいメンバー構成となった。献花は、先生が好きだった白い百合一〇〇本を参加者一人一人の手で遺影の前に積んでいった。三十一期北川（元ブラバン部長）の指揮で校歌を熱唱した。いい歌であった。長男文昌氏の主催者挨拶の後、悪友の東邦大学同級生千葉氏により菊正宗が先生のコップに注がれ、献杯。乾杯は、大森先生

の御発声だった。イベントは、先生の実兄の手紙による酒豪エピソードが奥様から語られ、石井智津子先生の手紙を山谷が発表し、千葉高に転校した秩父に二十五年ぶりにクラス費が返還されたり、ニンニク話、山、酒、ラグビーの伝説の連続で、笑いの絶えない楽しい会となった。（高間平三を偲ぶ会の写真は、バーチャル習志館 <http://www.dignette.jp/ohno/> に百七十枚超が展示されています。）天国から参加された高間先生もお疲れさまでした。飲み過ぎませんでしたか？先生が愛したものの（山、酒、ラグビー、東邦、家族、ニンニク？）が他の参加者にも愛されていたことに非常に感動しました。ご家族の皆様、お疲れさまでした。明るくて前向きなご家族の姿には、高間家の愛の力を感じました。最後になりましたが、ご参加いただきました皆様とご協力いただきました宮下靖旨夫妻はじめ、たくさんの友人の方々に厚く御礼申し上げます。

文責 三矢 宏（三十二期生）



## 事務局より

### 東邦高校同窓会の呼称の募集

同窓会の呼称を募集します。採用の暁には同窓会より相応の謝礼をさせていただきます。

### 原稿募集

- 同窓会では、次回会報に記載する原稿を募集しております。
- ・内容・近況等ご自由に
  - ・字数・一〇〇〇字程度
  - ・送付先・習志野市泉町二一―三十七 東邦大学付属東邦中高同窓会事務局
  - ・次回会報発行予定・平成十九年五月頃

# 特別寄稿

## 手



学校法人東邦大学理事長  
野口鉄也

選挙の候補者が手に白手袋をしてマイクを握るのは、何故だろう。清潔を誇示するゼスチュアが、かえって「手が汚れている」ことを印象づけていることを知らない。  
そんな手は生活や労働のなかで傷つき病む手を知ることとは今までも将来もないであろう。政治家はもちろんのこと、世間を生きてゆくには、なんらかのかたちで「手を汚す」ことは避けられない。  
「火中のクリを拾わざるを得ない」こともある。白手袋に投票しまいといつも思う。それではと、自動車から自転車にわざわざ乗り換えて、手に白いハンカチを持って、汗を流すシヨウ・アップ候補にも好感は持てない。  
【脈をとる看護婦の手のあたたかき日あり つめたき堅き日もあり】

啄木の病床歌である。  
この歌は書き直されたもので、書き直す前は「いつも、いつもつめたき手よと 脈をとる看護婦の手を 今朝も見つめし」とある。

啄木にとつては看護婦（師）の手はじつにいつもつめたかったのである。

患者啄木の本音であろう。

包帯や器具を冷たい水で洗っていた看護婦が手を消毒して、乾く遅もなく、病室を訪れる姿を容易に想像できる。東北の病院である。看護師の手の暖かさや冷たさは絶対的・物理的な温度では決してない。

相対的・心理的な温度である。

でも、看護師の手はいつも暖かいはずだと考えるのは患者側の一方的な思い込みであり、人情である。

啄木はそうした患者と看護師の相互の立場や心理に思いがゆれながら、いちど作った歌を書き直したのだろう。

人の手の温感に触れることは誰でも経験する。

医療の現場では、あらかじめ手が触れられると判った時点で、相互に暖かい手を期待する。

《往診時にはあらかじめ手と聴診器はポケットの中で暖めておくこと》と学生のとくに教えられた。

啄木は暖かい手を期待したのであるが、医療側は冷たい手で触れた患者さんの皮膚が収縮されては困るのである。やわらかい皮膚であるからこそ、十分な触診ができ、聴診ができる。処置することを「手当て」という。

まさに医療の原点は《暖かい手を当てること》にある。

最近「手当」いえば、労働に対する報酬のことになってしまった。残念である。

この話題の範囲に限れば、教育の現場でも、教員と学生・生徒の関係はまったく同じだと思う。期待の内容が異なると当然であり、それがプロである。

これから佐倉看護専門学校の戴帽式に出席することになっている。

時間はある。湾岸道路を走っている間にもう一度推敲してみよう。

こんな話をしようか。看護師の手は暖かいか、冷たいか。

## 四十三年間をふりかえって



元東邦中高教諭  
磯邊 浩

昭和三十八年四月一日に本校へ高校の国語の専任教師として着任いたしました。そこは馬の水飲み場がそのまま残っている帝国陸軍の兵舎を利用した校舎でした。最初は「ここで」と思いました。しかし、登校して来る男子生徒は似てもつかぬそれは素晴らしい姿でした。ここで教鞭を執り部活動を行う自分を誇らしくも思いました。

新人である私を有坂校長先生は女子部に所属させ、担任と野球部の監督を命じました。最初は、教室は女子ばかりなので顔を上げて話すこ

とができず、生徒の顔と向かい合わせに話すことができず、放課後の野球の練習時だけでした。

四十三年間の教師生活の中でも特に印象的な思い出が三十三年間の監督時代にあります。厳しく生徒に当たったこと、現同窓会会長の鮎川先生（理学部四年生）がずば抜けた選手として居たこと、春・夏・秋の大会に連続出場できたこと、県下私立高校大会に準優勝したこと、選手権大会で私のミスで四回戦で負けたこと、選手の手涙、選手不足でかけずり回る姿の初夢（幾度となく初夢に見た）等々ハッキリと覚えています。その後、学校の方針が進学で置かれ選手の入部が激少したため、チームが編成ができないうちもありましたが、他の部から選手を借りて出場し、二十五年間欠場は致しませんでした。その後八年間野球部長をやり、総務部長に任命され多忙を理由に引退しました。私は未だに野球部員の一人一人の顔やエピソードが思い出され、楽しく過ごさせてくれたことを心から感謝いたします。

東邦高校は、昭和四十四年十一月に下村弘毅先生が第六代校長に着任された頃から進学校を目指す高校になりました。下村先生は男女共学制を取り、授業も五十分六時限制にしました。また、習志会を動かし、進学校の視察・保護者と大学巡り等々工夫を凝らし、生徒が希望する学校に一人でも多く入れることを念頭においていました。そして、管理棟が火災に遭い全焼したのを機に新校舎の建設を本部や習志会に働きかけ、現在の泉町に新校舎を建設し、昭和四十八年八月三十一日に移転しました。さらに、残された兵舎を習志館と命名し、課外授業（夜間）をしたり、部活の合宿に利用しました。この習志館で夜間補習を遅くまでしたことが、又、

白羽寮で寮監として睡眠時間三、四時間しかとれないが直に触れた多感な寮生徒との生活は、私にとって忘れられない思い出です。

その頃、学校群制度が千葉県の一部地域で布かれましたが、これは結果として進学校東邦の躍進のきっかけになりました。学校群によって進学希望校の枠からはずれた優秀な生徒が毎年入学してくるようになり、制度施行の三年後から、東邦の進学校としての色は徐々に変わってきました。

第八代校長相川勝衛先生は、進学校としての発展を更に推し進め、東邦大学の医学部・薬学部・理学部の推薦入学者数を増員し、ますます理系大学進学校になっていきました。東大始め六大学・国立大学の理工系に多数進学し、東大にも二十数名進学を果たし、いよいよ東邦は県下私立高校の進学校の雄となりました。特に理工系進学ならば「東邦」と言われるようになったことはうれしいことでした。

平成四年五月に相川校長が退任し、後任に県立千葉高校の校長を退職した細野直先生が着任されました。先生は着任してすぐに四十周年記念事業として懸案だった新棟（現在、正門脇に建てられている特別教室棟）の建設計画にあたり、建築場所の決定、建物内の施設・設備計画等々、山積していた諸問題を一つひとつ解決していきました。

そんな時、先生は私を自宅（北鎌倉）に呼び、酒を飲みながら「東邦にはとてもいい物がある。其れは創設者額田晋先生の『自然・生命・人間』と言う著書だ。素晴らしい。あの精神を本校の理念にしたいがどうだ。」と話され、私は是非復活してくださいとお願ひしました。

翌年の六月頃、先生は『自然・生命・人間』の精神を基本理念とした教育方針を打ち出し、

東邦中高等学校のパンフレット作成に着手されました。私は夏休み返上でこのパンフレット作成に従事しました。細野先生の『自然・生命・人間』復活の反響は大きく、柴田理事長先生をも動かし東邦学園全体に復活し発展していきました。志半ば、細野先生は平成七年九月七日、在職中に急逝されました。「学校葬をするから計画を立案せよ」との命が下り、十月十日まで総務部を始め両教頭・事務長で企画しました。葬儀には二千五百人余りの方々が参列してくれました。細野先生の遺志を継ぎ同窓会は、英文対訳の『自然・生命・人間』の冊子を全校生徒・職員に配布することとしたことに私はうれしく思います。

同窓会や習志会の参加の下に、今の在校生たちは学習・運動そして進学に対する思われた設備、優秀なスタッフの環境の中で目的意識を持って学習に励んでいます。県下私立高校の雄として、それなりの実績を上げられておりますが、これからの私立の学校は弱肉強食の世界です。強者になるために現秋山校長先生の下、三位一体になって生徒の希望を実現させるよきサポーターとなって東邦中高等学校が一層発展されることを希望します。

私は職を離れ今机に向かい原稿を書いているのですが、四十三年という長きに渡り高校教諭としてひたすら歩んできました。家庭サービスは十分にできませんでしたが、私自身は人間（生徒）と言う世界の中で楽しく送らせていただいたことに感謝します。今は庭の草取り・釣り・ゴルフ等々自然の中に身をゆだねて気楽に日々を過ごそうと思っています。

同窓会員の皆様の御健康と益々の御発展を衷心より祈念致します。会報の場をお借りして御礼申し上げます。

## 東邦中高等学校の発展を願って



元東邦中高教諭  
下 遠野 実  
(第九期生)

季節は春から夏へと移り、樹々の葉の色も萌え黄から濃い緑へと変化し本格的な夏の到来を感じさせます。きっと東邦のシンボルでもある大銀杏も悠然として葉を茂らせていることでしょう。

さて、私は平成十八年三月三十一日で退職いたしました。過ぎてみれば早いもので三十六年間お世話になりました。この間に東邦は大きく変化し成長を遂げてまいりました。

私が勤めた頃は現在の東邦大学の敷地に中高があり校舎は木造の平屋建。グラウンドの向こう側には住宅が少しはありましたが雑木林が広がって、何とも長閑かな風景でありました。学校の敷地も広大で様々な野生動物が棲んでいたのではないかと思います。校舎は木造であったことが幸いしたのか生徒達の心はとても穏やかでありました。視点が低いということには人に、これほどまで影響を与えるものなのでしょう。とにかく、その様な環境の中で過ごせたということは幸福であったのかもしれない。

国府台女子学院に二年間という短い期間ではありますが勤めさせていただきました。その

中で得ることの出来た先生方そして生徒達との交流も忘れられないものがあります。仏教を基本とした学校でしたので、生徒達は礼儀正しく心豊かで何事にも真剣に取り組んでいました。現在も女子学院は当時の面影を残しつつ更に発展しているということは歎はしい限りです。

自分の母校である東邦に四十五年四月より勤めさせて頂くことになりました。そして、担任としてのスタートをしましたが、何よりも経験が浅いものですから、生徒達と衝突することも多く、毎日が戦いの連続であり気持ちの落ち着く日はなかった。その頃に担任をしていた生徒達も家族をもち立派な社会人になっていることでしょう。授業は中学と高校を合わせて二十三日間ほどを担当していたのではないかと思います。授業が多かったものから休み時間も少なく、かけずり廻っていました。その様に忙しい中で生徒達との語らい、作品を制作する過程の工夫。そして作品が完成したときの喜びや感動を生徒とともに共有できたことが私の良い思い出となっています。また部活動では片倉先生といっしょに活動しておりました。先生からは様々なことを教えていただき、とても感謝しております。先生はいつも穏やかな口調で話され、怒るときは本気で怒っていました。でも生徒の作品については、どのような作品にも良い部分を見出し徹底して褒めることを実践され良い効果をあげ数々の感動的な作品を誕生させることができました。先生から教わった彫刻の技法。いっしょに先生の作品の制作の手伝いをさせていたことなど忘れられない思い出です。しかし、その先生も今は亡く淋しい思いをしています。

その頃の美術棟はプレハブ建で備品なども充分ではありませんでしたが、高校生も中学生も生き生きとして授業を展開し数多くの作品を誕

生させることができました。主に油絵とデザインを中心に制作していたことを記憶しています。また校内の体育館において美術の作品展を開催しました。体育館の全てを使っての展示は準備の段階から、かなりの時間を必要とするものでした。生徒の作品の全てを展示する為には展示パネルが最低でも四十枚は必要であり、それ等を自分達で作らなければなりません。私と片倉先生とで毎日のように美術室に残りパネルを作り展示の間に合わせました。そして油絵の為の仮縁の取り付けなど美術部員などの協力を得て展示の為の準備が着々と進み会場の設営です。いま考えてみますと、あの広い場所でもよく開催できたものだと思います。それもこれも生徒達の全面的な協力があって出来たことだったのです。それだけ生徒も私も情熱的であったということでしょう。このようにして旧校舎では二回ほどの美術の作品展が開催されました。

また忘れられない出来事として四十七年三月十二日の管理棟の火事があります。その日の夜に自宅に電話があり、校舎が燃えているという連絡で私は気が動転し、大久保の駅から、どのくらいの速さで走ったのでしょうか。息も絶え絶えで学校に着くと、そこには大勢の職員が心配そうに見守っていました。消火されてはいませんが、燃えたあとの臭いが辺り一面に残り出来事の生々しさを物語っていました。結局、火事の原因は判らず不審火ということで片付けられました。幸いにも書類などは無事であり運営上の問題がなかったことは不幸中の幸いでした。

昭和四十八年には東邦大学の新校舎が建設され中高が移転しましたが、その為の引越の準備も大変でした。何しろ全校挙げての出来事ですから、生徒達が総動員され、どれくらい時間がかったのでしょうか。リヤカーに美術作品とか備品をのせ何度となく往復し新校舎の美術室に運んだことは大変でしたが良い思い出として残っています。引越した美術室は、またプレ

ハブでありました。ですが、その中で、また美術科は新たなスタートをしなければならぬと感慨もひとしおでした。ですが自分の気持ちとしては何故に新校舎に移転してまで美術科はブレハブなのかという部分があったことも事実であり、自然・生命・人間を基本理念とする東邦が、このような扱いをすることは納得がいけないという不満もありましたが、建物はどうであれ良い作品を誕生させ、生き生きとした授業をすることが自分に与えられた使命だと自分に言い聞かせ授業に取り組んできました。

四十八年の夏休み以後は新校舎での授業。生徒達も新しい環境に満足の様子であり、学校全体が希望に満ち溢れ、これから先に訪れる東邦の未来が輝かしいものになることを期待したものです。

美術科では油絵とデザインそして工芸を中心として授業を展開し生徒達の明るく、元気な声に励まされ、生かされて授業を続けて参りました。考えてみますと担任の経験は東邦に勤めさせて頂いてから何十年になるでしょうか。その間には悩み苦しみもありましたが生徒達の喜びを共有できた場面も沢山ありました。体育祭などではクラスが一丸となって取り組み精一杯に頑張ったこと。銀杏祭で遅くまで残り展示をしたこと。校外学習で京都、奈良、広島、東北などを引率し現地で過ごしたことなど良い思い出として残っています。また毎年行われた音楽祭。生徒は毎日のように遅くまで残り声が枯れるまで練習をしていました。担任としては結果がどうあれ大きな拍手をしたものです。

美術陶芸部では毎年の銀杏祭の展示発表を目標し活動をして参りました。部員達との触れ合いや展示の為の準備など思い出すことが沢山あります。三十六年間の間には何人の生徒と出会い、何人の先生方と出逢ったことでしょう。美術の授業では生徒と対立することもありました。私の授業は生徒にとって満足のいくものであったのだろうか。いまとなつては、どう仕様

もないことですが私は私なり頑張ってきたと考えます。私としては美術という授業を通して作品を完成するまでの過程を楽しみ、完成させることの喜びを感じてもらいたかったのです。

私的には、この三十六年間に二人の子供の誕生、そして結婚。孫六人の誕生そして成長。こうして人の歴史は繰り返されていきます。

東邦中高も同様であり、その長い歴史の中で常に変化を遂げていくものです。止まることは許されません。停滞は衰退を意味します。是非とも東邦の理念である自然・生命・人間の基本理念が将来に見事に開花されることを期待します。

私は東邦の卒業生として本校に勤めさせて頂き本当に幸せでした。私はこれから先は自分の目指す造形の分野を納得のいくまで探求し作品の制作をしていきます。今迄お世話になりました先生方。生徒の皆さん。保護者の皆様方。さらに東邦中等高等学校のたいなる発展を心よりお祈り申し上げます。

## 自分探しの旅



元東邦中高教諭  
森 岩 公 子

非常勤一年、専任三十一年の三十二年間勤務しました東邦中学校を、この度退職しました森岩です。三十二年間の長きに渡り、先生方は反

面教師として、また生徒諸君や卒業生そして保護者の皆様には様々な面で、「私の師」として今日の森岩公子を育て上げてくださり感謝に堪えません。定年退職まで、約十年を残して学校を去らなければならなくなった心の変化をお話ししましょう。

二、三年前から、学校の方針が大きく変化し、その方針が、自身の生物学を通しての教育観と異なることを感じました。生物の授業を通して、学ぶことの楽しさを伝え、またそれを獲得した生徒が、自ら学びたいと思えるようになるための授業を研究し工夫し精進してきましたが、学校、保護者の皆様、生徒諸君それに自分が、残念ながら不協和音を奏で始めている事を、日々感じるようになりました。まるで、将棋のゲーム中に、碁石が一つ混ざっているような気がいたしました。変化してしまつた碁石が「歩」であるならば、対局にほとんど影響はありません。将棋と言うゲームは、強者と弱者が対局した時、「飛」「角」「金」「銀」抜きでも対戦できるゲームです（将棋に興味のある人は将棋の本を読んで下さい）。学校の教師も将棋の駒に似ているところがあります。このことは、どの組織にも当てはまることかも知れませんね。

そんな自分に気づいた時、盤上から落ちて自分自身に白黒付けたくなつたのでしよう。落ちた碁石は、碁盤上で生き返る事を望まず、自分自身が何者なのかを確かめるべく、「自分探しの放浪の旅」に出ました。「discovery kiniko」をします。この将棋盤でのルールは、良い悪いの問題ではありませんから。「東邦中学校は、…のような教育方針です。」と説明を受け、難関の入試をパスして入学した在校生諸君ですから、自分の選んだ道を信じて将来を自身の努力で切り開いていってください。私の父がよく言っていた言葉「生涯現役、人のために生きよ」

が今、耳に響いてきます。それでは、皆様ご機嫌よう。皆々様、本当にありがとう御座いました。see you again ！

## 東邦高校卒業生の皆さまへ



東邦大学医学部長  
黒 田 優  
(第十八期生)

私が東邦大学付属高等学校を卒業したのは昭和四十七年だったと記憶しています。当時は現在のような整った教学環境ではありませんでしたが、自由に伸び伸びと楽しく勉学やクラブ活動に従事させて頂きました。付属東邦高校から本学医学部に毎年何人か入学して頂いていますが、いずれの学生さんも聡明かつ自由闊達で、私が学ばせて頂いた頃の学生気質が受け継がれているものと大変嬉しく、そして頼もしく感じています。

この四月から医学部長を務めさせて頂くことになり、お招き受け付属中高の入学式に列席させて頂きました。有名大学に進学者を増やすことだけがよい学校のバロメーターではありませんが、着実に優秀な進学者を輩出していることに加え、入学者の引き締まった面持ちと厳肅な入学式の挙行は、母校の確実な成長を目の当たりにした感慨深いものでした。その入学式で偶々

擦れ違った高校時代の同級生である御喜先生より、同窓会ニュースへの寄稿を依頼されました。締め切りは五月中と伺ったので、それでは時間がなくご依頼に添えないとお答えしたところ、他に寄稿したものを転載という形でもいいとのことでしたのでお受けした次第です。以下、東邦大学の広報誌に記載されました医学部長の抱負を転載させて頂き、同窓生の皆様方へのご挨拶とさせて頂きたいと存じます。

先ず始めに、基本的な姿勢を述べさせて頂きます。これまでの医学部長を始めとする多くの先生方のご理解とご尽力で機構改革が推進され、組織再編や人事制度改革等が具体的かつ機能的な形で運用されるようになって参りました。しかし、この中で変革の必要性や妥当性についての理解がすべての教員に浸透し切っていないといった事実もあります。このため、特に、若い先生方には、誤解や不信感を招来してしまつた嫌いも否めません。また、教員削減に伴う教育および診療負担の増大の上に成果主義の鞭は、教員のやる気や意欲の発場ではなく、閉塞感をもたらしている感もあります。これは、執行部の末席を占めていた私自身の責任でもあります。私は、是非、この後向きな沈滞ムードを払拭したいと思えます。時には、強権的ともみえる数に頼つた速決も必要でしょうが、基本的には相方向性の対話に基づいた決定を重視したいと考えます。少なくとも、仕方がないと納得づくの決め事を目指したいと思えます。この相互理解や納得は、労さえ厭わなければ時間だつてそう掛からない筈です。この思いは、以前あったあの「東邦の家庭的な雰囲気や暖かさ」を取り戻し、教職員皆が気持ち良く、信頼感と帰属

意識を携えて仕事に取り組める明るい姿を回復させたいからです。教育、医療そして研究は、手間暇の掛かるものであり、拙速であつてはなりません。勿論、受験者人口の減少や厳しい医療行政・環境の中に生き残る大学を作るには競争原理も当然導入しなければなりません。しかし、行き過ぎた成果主義や業績主義は、目に見えないサービスや善意に負うところが大きい教育や医療の現場に損得勘定を植え付け、歪みや荒廃を齎すのは必定でしょう。正に今が、そのような状況への入り口にあるように思えてなりません。現状を分析し、もし、問題があれば、現行の医学部機構改革、即ち、組織再編、教員任用制度、業績評価制度の軌道修正を図ることに躊躇しないつもりです。いずれにしても、社会のニーズに應える教育、研究、医療の実践には質の高い人的資源が必須です。そのようなマンパワーの源泉となり、次代を担う学部学生の入試選抜については、多くの時間をかけて見直したいと考えます。医学部の将来に繋がることには、可能な限り、一生懸命取り組む覚悟ですが、限られた任期の中で、以下のことを優先的に実践したいと考えます。一）入試選抜方法・基準の見直しを含む入試制度の抜本的な改革を行う二）若手教員（四十歳前後）による諮問委員会を設置し、一〜二年以内の現状解析と将来構想に関する答申を求める。三）上記諮問委員会の答申を受け、諸制度・規程の見直しを検討する。教職員に説明責任を果たす労を厭わず、取り分け、東邦の将来を担う若い先生方にご理解頂けるような対応、措置を取っていきたいと考えます。以上、高邁な構想などありませんが、気持ちに通い合い、信頼に裏打ちされた医学部を目指し、誠心誠意物事に対処し、自らが大きい汗をかく覚悟でおります。何卒宜しくお願ひ申し上げます。

# 学 校 の 近 況

## 一、在籍数（平成十八年四月現在）

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	計
男子	199 名	165 名	192 名	556 名
女子	94 名	114 名	126 名	334 名
合計	293 名	279 名	318 名	890 名
学級数	7	7	8	22

	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年	計
男子	246 名	198 名	202 名	646 名
女子	137 名	152 名	140 名	429 名
合計	383 名	350 名	342 名	1075 名
学級数	9	9	9	27

## 二、平成十八年度 主な学校行事の日程

体育祭（中学） 九月三十日（土）

九時から一般公開します。

（高校） 六月八日（木）

終了しました。

文化祭「銀杏祭」（中高合同）

九月十六日（土）・九月十七日（日）

一般公開は土曜が十二時から、

日曜は九時からです。

## 入学学力検査

### 中学校

前期……………平成十九年一月二十一日

後期……………平成十九年二月三日

### 高校

前期選抜試験……………平成十九年一月十七日

後期選抜試験……………平成十九年一月二十八日

## 学校説明会・学校見学会

### 中学

学校説明会

- ①十月二十三日（月）
- ②十月二十四日（火）

両日とも十四時～十五時半

於 第一体育館アリーナ

### 個別の学校見学

原則として土曜日の十時に本館

ホールに集合

要電話予約 上履き持参

### 高校

学校説明会

- ①十月二十八日（土）
- ②十月二十九日（日）

於 セミナー館視聴覚大ホール

要電話予約 上履き不要

学校見学会

- ①七月二十九日（土）
- ②八月二十五日（土）
- ③十一月二十五日（土）
- ④十二月二日（土）

いずれも十時～十一時半

要電話予約 上履き持参

※ TEL 0471-47218191

## 三、部活動の活躍

（平成十七年四月～十八年四月）

### 中学

●硬式テニス部 関東大会 男子個人ダブルス出場

●陸上競技部 関東大会 男子100m7位入賞、男子100m出場

●サッカー部 千葉県私立大会優勝

●水泳部 関東大会 女子400mリレー6位入賞

●スキー部 全国大会出場

●ハンドボール部 関東大会出場

●卓球部 県大会出場

●オーケストラ部 定期演奏会（十一月）

### 高校

●硬式テニス部 県大会出場

●ソフトテニス部 県大会出場

●ハンドボール部 関東大会

●バレーボール部 県総体 男子ベスト3

●硬式野球部 夏期県予選 二回戦出場

●水泳部 関東大会 男子1000m・2000m背泳ぎ出場

●卓球部 女子1000m背泳ぎ出場

●スキー部 男子4000mメドレーリレー出場

●陸上競技部 男子800mリレー出場

●女子総合優勝

## 四、高校女子制服の改定について

平成十九年度の高校新入生から、女子制服が改定されることになりました。

高校女子制服の改定は、昭和二十七年に東邦高校が創立して以来初めてのことです。

## 五、先生方の異動

平成十八年三月、磯邊浩先生（国語科）、下遠野実先生（芸術科美術担当）、森岩公子先生（理科生物担当）が東邦中・高校をご退職になりました。

# 平成十八年度 入試結果

進路指導部長 山岸 良二

## 医歯薬系の東邦 今年も大躍進

全国的に大学入試センターの平均点がかなり高得点であったが、その中でも本校は全国平均を三〇点以上も上回る好成績を挙げた。一〇〇人以上の受験者数を持ち九〇〇点満点換算で学校平均が七〇〇点を超えた県内高校はわずか三高校しかなく、本校もその一角に入る実績をあげることができた。このため二次試験の結果がおおいに期待され、東京大学は久しぶりに七名、東京工業大学九名、東北大学六名と難関国立大学で多くの成果を挙げた。他にも地元の千葉大学は全合格者数こそ昨年よりやや減の二六名であったが、内訳の医学部五名、薬学部四名は県内高校にあってもトップの合格者数だった。また、自治医科大学は県内二名合格の一席をとり、産業医科大学、防衛医科大学校にも久しぶりに現役生が合格、最終的には国公立大学医学部合格（進ずる大学も含む）も四年ぶりの二三名となった。この数字はダントツの県内トップである。

国公立大学の最終的合格者数も一〇〇名の大台を超え、これで五年連続の大台突破となった。

一方、私立大では予想どおり現役生が頑張り、早稲田大では九三名と過去三年間で倍増の数字をあげ、慶應大は昨年比プラス五名の四二名、上智大も昨年並みの三九名（昨年四八名）という結果であった。中堅大では女子に人気の立教大が五七名、中央大が三八名とこども飛躍的に合格者増となった。また、理系の東京理科大が五年連続の三ケタ一四三名合格となり、県内トップの地位を獲得した。

本校から毎年多数の合格者を出す私立薬学系は本年度からの「薬学六年制」が影響してか、受験数自体が大きく減少したがそれでも一〇〇名合格と健闘する成果を挙げた。この薬学部受験者減少の反動が医学部受験者の増加をもたらしたが、こども現役生が頑張り私立医歯薬系の合格者数も過去五年間最高の一六八名であった。最終的に私立大学全体での合格者数は一〇九九名という大台に達した。

大学名	合計	学部名	現役	既卒
聖マリアンナ医科大	1	医	0	1
洗足学園大学	1	音楽	0	1
鶴見大学	2	歯	0	2
東京工芸大学	1	芸術	1	0
フェリス学院大	1	文	1	0
横浜薬科大学	2	薬	0	2
愛知学院大学	1	心身科学	1	0
同志社大学	3	経済	0	1
同志社女子大学	1	工	2	0
立命館大学	5	薬	1	0
		文	1	0
		経済	1	0
		経営	2	1
近畿大学	1	医	0	1
武庫川女子大学	1	薬	1	0
産業医科大学	1	医	1	0
福岡大学	1	医	1	0
九州東海大学	1	農	1	0
立命館アジア太平洋大	3	太平洋	1	0
		マ	1	1
私立大計	981		666	315

### 【その他】

防衛医科大学校	1		1	0
航空保安大学校	1		1	0
国立看護大学	1		1	0
防衛大学	1		1	0
千葉県立衛生短期大	1		1	0
昭和女子大短大部	1		1	0
東京農業大短大部	2		2	0
北里大保健衛生専門学校	1		1	0
東京医薬専門学校	1		0	1
自衛隊看護学院	1		0	1
その他計	11		9	2

総計	1093		744	349
----	------	--	-----	-----

私ども東邦の進路指導の原則は「生徒一人一人の自分探し」を助ける事を第一に、高校一年時からどのようなた志望にも教員全員がじっくり相談にのる体制を敷いている。

### 主要大学合格者数

#### 【国公立大学】

大学名	14年度			15年度			16年度			17年度			18年度		
	現役	浪人	合計												
東京大学	2	2	4	2	3	5	3	1	4	3	1	4	5	2	7
京都大学	3	2	5		3	3		2	2	2	1	3	1		1
東京工業大学	4	6	10	5	3	8	6	3	9	3	5	8	6	3	9
一橋大学		1	1	2		2	3		3	2	1	3	2		2
旧帝大	6	5	11	9	7	16	3	6	9	3	2	5	9	1	10
千葉大学	15	6	21	18	14	32	29	14	43	23	5	28	19	7	26
医学部	1	0	1	0	3	3	3	0	3	2	1	3	2	3	5
国公立医学部	7	15	22	3	15	18	6	10	16	6	11	17	9	14	23
その他	28	29	57	30	17	47	16	28	44	22	10	32	21	6	27
国公立大学合計	65	66	131	69	62	131	66	64	130	75	44	119	72	31	103

上記の旧帝大とは北海道大・東北大・名古屋大・大阪大・九州大

#### 【私立大学】

大学名	14年度			15年度			16年度			17年度			18年度		
	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計	現役	浪人	合計
早稲田大学	29	38	67	30	15	45	40	41	81	52	31	83	67	26	93
慶應大学	24	25	49	10	12	22	24	11	35	20	17	37	27	15	42
上智大学	26	9	35	15	5	20	19	11	30	32	16	48	31	6	37
東京理科大学	61	54	115	43	61	104	55	44	99	70	56	126	99	44	143
早慶上智理科大合計	140	126	266	98	93	191	138	107	245	174	120	294	224	91	315
私立医学部	13	22	35	13	23	36	17	18	35	14	26	40	24	35	59
私立歯学部	4	1	5	1	4	5	7	5	12	1	13	14	6	3	9
私立薬学部	46	34	80	36	41	77	47	65	112	67	28	95	53	47	100
私立医歯薬合計	63	57	120	50	68	118	71	88	159	82	67	149	83	85	168

平成 18 年度入試 大学等合格者・進学者数

【国公立大学】

Table of national/public university admissions. Columns: 大学名, 合計, 学部名, 現役, 既卒. Rows include 旭川医科大学, 北海道大学, 東北大学, etc.

【私立大学】

Table of private university admissions. Columns: 大学名, 合計, 学部名, 現役, 既卒. Rows include 奥羽大学, 国際医療福祉大, etc.

Table of national/public university admissions (continued). Columns: 大学名, 合計, 学部名, 現役, 既卒. Rows include 文教大学, 明海大学, 日本薬科大学, etc.

Table of national/public university admissions (continued). Columns: 大学名, 合計, 学部名, 現役, 既卒. Rows include 昭和女子大学, 昭和薬科大学, 成蹊大学, etc.

Table of national/public university admissions (continued). Columns: 大学名, 合計, 学部名, 現役, 既卒. Rows include 日本大学, 日本医科大学, 日本歯科大学, etc.

# 新入会員を迎えて

同窓会は、この三月、三七三名の新しい仲間を迎えました。  
新会員の希望に燃えたメッセージを紹介します。

## 入

学してから二ヶ月が過ぎ、やっと慣れはじめた私の大学生活を紹介したいと思います。私の通う産業医科大学は普通の医学部とは違って産業医を育てるために、国の政策によって設立された医学専門の学校です。八時五十分から始まる一コマ九十分の授業は、週に一度の選択科目を除いて全て必修です。講義は一週間に大体十九コマ前後あります。一対多数の講義だけでなく、自分の好きなテーマを選び、少数人数で受け

られるセミナー講座もあり、とても充実した勉強が出来ます。

大学生といえば、サークル活動ですが、産業医科大学にサークルはほとんど無く、部活動が中心になっています。ほとんどの人は部に所属しています。真面目な部活から半ばサークル状態のものまでさまざまで、みんな思い思いに活動を楽しみます。科や学年の違う人と親睦を深めています。

また、産業医科大学には全国各地から医療従事者になる志をもった仲間が集まっています。当然、それぞれの出身地はバラバラです。でも、寂しくなんかありません。出身県が同じものどうしが学年を超えて集まって、地元の話で盛り上がる「県人会」という産医大ならではのグループがあるからです。産医大では本人が望めば、交流の輪はいくらでも広がります。

入学当初は産医大についてあまりよく知らないまま、大学のイメージを作っていました。けれどだんだんと良いところや悪いところが見えてきて、初めのイメージと実際の産医大はまったく違ってました。良いところも悪いところもひっくり返るめて、産医大が大好きです。よい医師になれるよう、ここで頑張っていきたいです。

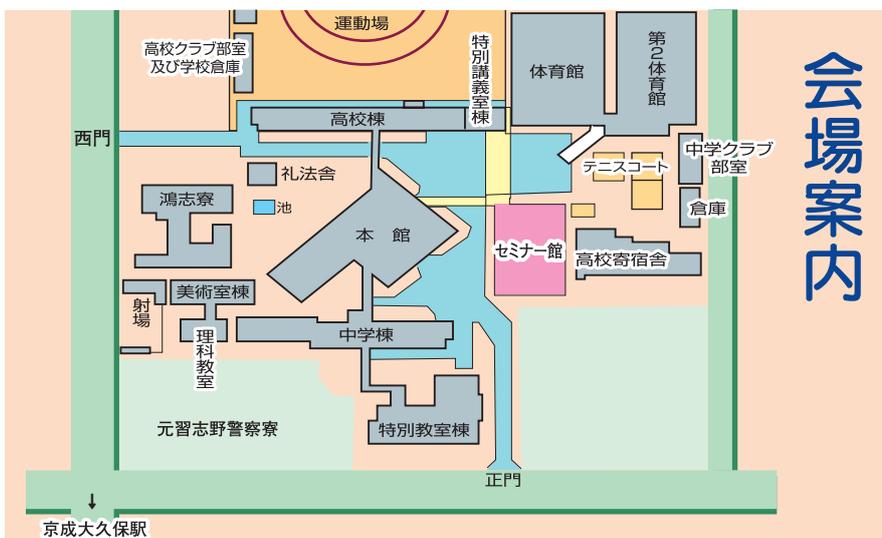
宮田 寛子

### 同窓会事務局より

事務局担当理事 御喜 和  
18期生母校教員

- (1) 同窓会事務局がセミナー館2階へ移動しました
- (2) パート事務員の方の同窓会事務室での執務時間  
水曜日 9:30～14:30  
土曜日 9:30～14:30  
同窓会へのお問い合わせは、なるべくこの時間帯にお願いします  
直通電話 047-472-1160  
\*FAX 番号は電話番号と同じです
- (3) 緊急の連絡に関して  
上記の執務時間以外は、同窓会室への電話連絡はできません  
緊急のお問い合わせは学校代表  
047-472-8191 にお電話いただき、「同窓会関係教員」を呼び出してください
- (4) ホームページ等に関して  
URL <http://www.dosokai.org>  
E-mail [tohojh\\_dousokai@yahoo.co.jp](mailto:tohojh_dousokai@yahoo.co.jp)

## 会場案内



## 編集後記

今回の会報では年度末に退職された先生方の玉稿の掲載にかなり多くの紙面をとらせて頂きました。長い東邦の歴史を知るよすがになれば幸いです。

(会報ならしの編集委員会)